

## きょうだいの障がい有無がきょうだい関係の認知や 対人関係に及ぼす影響

藤田, 由起  
九州大学大学院人間環境学府

沖田, 夏美  
九州大学大学院人間環境学府

樋渡, 由貴  
長崎短期大学

井手, 沙織  
大阪大谷大学

他

<https://doi.org/10.15017/2232325>

---

出版情報：九州大学総合臨床心理研究. 10, pp.17-24, 2019-03-27. 九州大学大学院人間環境学府附属総合臨床心理センター  
バージョン：  
権利関係：



# きょうだいの障がい有無がきょうだい関係の認知や 対人関係に及ぼす影響

藤田由起 九州大学大学院人間環境学府 / 沖田夏美 九州大学大学院人間環境学府 / 樋渡由貴 長崎短期大学 /  
井手沙織 大阪大谷大学 / 尾方里帆 医療法人明和会くまもと悠心病院 / 遠矢浩一 九州大学

## 要約

本研究では、定型発達児をきょうだいに有する場合と、障がい児をきょうだいに有する場合に、きょうだい関係がもたらす影響に差があるのかを検討することを目的とし、定型発達のきょうだい（以下ST（Siblings with Typical development））をもつ対象者（以下IST（Individuals who have a Sibling with Typical development））と、障がい児を有するきょうだい（以下SD（Siblings with Disabilities））をもつ対象者（以下ISD（Individuals who have a Sibling with Disabilities））に半構造化面接を実施した。その結果、①ISTはきょうだい関係について考える際、自分とSTの二者間で完結しやすいのに対し、ISDは他者を含めた環境の中できょうだい関係を認識していること、②ISDは、SDとの関係から、自身の生活や考え方、対人関係に対するポジティブ・ネガティブ両側面の影響を受け得ること、③親や周囲がISDのきょうだいとしての役割意識に理解を示し、役割を請け負いすぎないようにサポートすることで、ISDがきょうだい関係から自然と担ってしまいがちな取得役割の負担を軽減したり、自分自身の生活や人生を楽しもうとする姿勢が生まれやすくなったりすることが示唆された。

キーワード：障がい児、きょうだい、葛藤、対人関係への影響

## I. 問題と目的

きょうだいとの関わりは、子どもが適応的に過ごしていくためのポジティブな影響を与えうるものであるとこれまでの研究で示唆されてきた。早川・依田（1983）は、「きょうだい関係は、親子関係にみられる「たて」の関係と、友人関係にみられる「よこ」の関係とがくみあわされているということが出来る」と述べており、このような性質から、きょうだい関係は親子関係と友人関係の橋渡しの役割を担うものであると考えられている（白佐，2004）。また、吉田（1991）の研究において、きょうだいは行動のモデルや比較対象となり得、きょうだい関係は道徳性などの発達を促すものであると述べられている。その一方で、障がい児を有するきょうだいの存在が、きょうだい関係に大きな影響を与えうる多くの研究で示されている。これ以降、文章が煩瑣になることを防ぐため、定型発達のきょうだいを「ST（Siblings with Typical development）」、障がい児を有するきょうだいを「SD（Siblings with Disabilities）」、定型発達のきょうだいをもつ対象者を「IST（Individuals who have a Sibling with Typical development）」、障がい児を有するきょうだいをもつ対象者を「ISD（Individuals who have a Sibling with Disabilities）」と略記し論じる。例を挙げると、Siegel & Silverstein（1994）の研究において、ISDは「親役割をとる子ども」、「引きこもる子ども」、「行動化する子ども」、「優れた行動をとる子ども」の4タイプに分類されており、遠矢（2009）は「年齢や性別にふさわしくない高すぎる責任感」、「自分のことを二の次にしてしまう」などの心の問題が生じやすいと指摘している。一方、発達障がいのSDを有するISDへの肯定的影響について、大瀧（2011）は「家族の中で同胞を助けるという重要な役割を果たすことで自己評価を高め、責任感を持ち、より早く成熟していくこと、寛容さや誠実さを身につけること」などがこれまで報告されてきたと述べている。さらに、ISDへのプラスの影響として、「人格的な面の成長」「人との出会いの豊かさ」（藤井，2006）などが明らかになっている。このように、障がい児をきょうだいに持つ場合、定型発達児のきょうだい関係とは異なる、ポジティブ・

ネガティブ両側面の影響があると示唆されてきた。しかしながら、これまで障がい児をきょうだいに持つことの影響は示唆されてきたものの、ISDとISTを比較した研究はほとんど見当たらない。したがって、ISDへの影響と言われてきた現象が、明確にISTとの差異があるものか、ISD特有のものといえるかどうか検討する必要があると考えられる。

そこで本研究では、ISTである成人と、ISDである成人にそれぞれインタビュー調査を行った。これを通して、両者のきょうだい関係そのものの違いや、きょうだい関係に関わる不安や葛藤を明らかにすることで、これまでのISDに関する研究で示唆されてきたISDの特徴について再検討することを本研究の目的とする。同時に、ISDとISTが、自身ときょうだいとの関係性をどのような形で主観的に認知・評価してきたのかについて探る。そして、その認知に至った背景として、きょうだい関係が自身の生活や考えにどのような影響をもたらししてきたのかについても検討する。さらに、きょうだいに対する思いときょうだいの認知が、どのように関係しあい、変遷していったのか、きょうだいの障がい有無による違いを検討する。これらを通し、ISDとISTの違いに関する新たな知見を得て、今後のきょうだい研究に役立てる材料とすることも本研究の目的とする。

## II. 方法

### 1. 調査対象者

きょうだいをもつ20～40代の大学生または社会人9名（IST 5名、ISD 4名）を対象とした。大学生についてはきょうだいがあり、A大学で心理学または教育学を専攻する方々、社会人についてはきょうだいがあり、かつてA大学で心理学を専攻していた方々に調査協力を依頼した。調査の前に、後述する倫理的配慮について説明し、同意を得られた方々に調査を実施した。調査実施後の分析の際に、きょうだいが定型発達であるか、障がい児を有しているかによって分類した。

### 2. 調査時期

2015年11月下旬～12月中旬

### 3. 調査手続き

半構造化面接を実施した。まず、調査協力者（対象者）に面接に入る前に、質問紙にも回答してもらった。きょうだい関係の中で想起されやすかった印象的な出来事について質問紙の中で回答してもらうことで、その体験に関する内容を中心として面接を展開し、きょうだい関係に関してより詳細に語りが得られるよう、面接の導入として用いた。質問紙回答後、半構造化面接の中できょうだいに関する質問を行った。

#### 1) 質問紙の項目

##### (i) フェイスシート

- ①年齢、性別
- ②家族構成（家族の年齢、職業または所属、現在の同居の有無・同居していた期間）

##### (ii) 半構造化面接への導入

半構造化面接の導入として、以下のような教示文できょうだい関係についての回答を求めた。「きょうだいとの関係の中で、自分にとって良い経験となったこと、迷ったり悩んだりしたことがたくさんあると思いますが、その中でご自身にとって印象に残っていることを教えてください。また、そのようなきょうだい関係における経験からご自身に生じた悩みや葛藤が和らいだ出来事についても教えていただければと思います」。回答の記入が得られた対象者に対してはここで記入してもらった内容について、質問紙記入後の面接でも質問した。回答を記入する行為が想起をかえって妨げると判断された対象者については、記入を求めずその後の面接で口頭で質問した。

#### 2) 半構造化面接の内容

質問紙の ii の項目に記入を得られた対象者に対しては、記入されていたエピソードについて詳細を尋ねた。記入を得られなかった対象者に対してはきょうだい関係の中での経験や印象に残っている出来事等の想起が難しかったと判断し、それらの想起を促すことを目的として、きょうだい自身やきょうだい関係に対する認識について口頭で尋ねた。具体的には、まず対象者にとっての自身ときょうだいの関係がどのようなものであるか尋ねた。次に、対象者のきょうだい関係に関する認識についてより詳細に把握するために、そのきょうだい関係の認識の裏付けとなった出来事や、きょうだいがいてよかったと感じた出来事、きょうだい関係の中で葛藤した経験、きょうだいの印象などについて質問した。その中で、印象的なエピソードが出てきた際にはそのエピソードについて詳細を尋ねた。その後は対象者の話の流れを重視しつつ、対象者の幼少期から時系列に沿ってきょうだい関係の変遷を振り返ってもらった。

### 3. 分析方法

KJ法を用い分析を行った。以下の分析は、心理学を専攻する大学院生3名と大学生2名で行われたものである。まず、面接の中で対象者が語った全ての内容の中から、きょうだい関係やそれに関連する事柄に対しての思いや実際の行動が語られていると考えられた部分を抽出した。その後の語りの分類は、ISTの語りとISDの語りを分けて行った。具体的には、先にISTの語りの分類を行い、その後ISDの語りの分類を行った。ISTの語りを先に分類することで、その分類をISDの語りの分類の基準とし、ISTと類似した語りの分類が見えやすくなる上、ISD特有の語りについても見えやすくなると考え、このような分析手法を採用した。語りの分類では、類似した内容のものをまず

小分類にまとめ、命名した。そして、それらの関係や類似性を検討し、中分類を作成、命名した。最終的に、対象者からきょうだいへの態度・感情なのか、きょうだいから対象者への態度・感情なのか、または双方の関係に関わることなのか等の観点で、大分類にまとめ、命名した。本研究の中では、大分類は【 】, 中分類は[ ], 小分類は『 』で示す。

### 4. 倫理的配慮

調査への参加は任意のものとした。半構造化面接の内容、質問紙への回答は個人が特定される形で公表されないこと、調査はいつでも中断することが可能であること、またそれによって参加者に不利益が生じることはないということを伝えた上で同意を得られた対象者に調査を実施した。

## III. 結果

IST 5名、ISD 4名に半構造化面接を行った。対象者とそのきょうだい構成を表1に示す。

#### 1. ISTの語りの分類

IST 5名のデータより、きょうだいやきょうだい関係に関する112の語り抽出された。抽出された語りを、『きょうだいをモデルとしての自分の成長』『自分ときょうだいの考えの違いを尊重する姿勢』『きょうだいから自分への不変の態度』等の41の小分類に分類した。次にそれらの小分類を[自分の成長][きょうだいに対する基本的姿勢][きょうだいから自分への基本的姿勢]等の21の中分類に分類した。最終的にこれらを【きょうだいから自分への影響】【きょうだいに対する態度】等の10の大分類に整理した(表2)。

#### 2. ISDの語りの分類

ISD 4名のデータよりきょうだいやきょうだい関係に関する216の語り抽出された。これらもISTの語り同様の手続きで『特別な経験』『世話役割を積極的に取る姿勢』『特殊と捉えかねない行動』等の72の小分類に分類した。次にそれらの小分類を[きょうだいの存在の自分への影響][きょうだいに対する基本的姿勢][自分に対するきょうだいの具体的行動]等の31の中分類に分類した。最終的にこれらを【きょうだいから自分への影響】【きょうだいに対する態度】【自分に対するきょうだいの態度】等の14の大分類に整理した(表3, 表4)。

## IV. 考察

本研究では、ISTとISDのそれぞれのきょうだい関係について、半構造化面接を元にKJ法を用いて分析した。その結果、IST、ISDでおおむね一致する大分類が9個抽出されたが、一方で、5つのISD特有の大分類が抽出された。また、両者の中で同じ大分類に分類された語りであっても、その語りの内容からは共

表1. 調査対象者

| 調査対象者 | 年齢 | 性別 | きょうだい        | きょうだい構成   |
|-------|----|----|--------------|-----------|
| A     | 20 | 男性 | 定型発達児        | A, 第1, 第2 |
| B     | 21 | 女性 | 定型発達児        | 兄, B      |
| C     | 21 | 男性 | 定型発達児        | C, 妹1, 妹2 |
| D     | 21 | 女性 | 定型発達児        | 兄, D      |
| E     | 20 | 女性 | 定型発達児        | E, 第1, 第2 |
| F     | 41 | 女性 | 障がい児 (知的障がい) | F, 妹      |
| G     | 37 | 女性 | 障がい児 (知的障がい) | G, 妹      |
| H     | 21 | 女性 | 障がい児 (発達障がい) | H, 弟      |
| I     | 20 | 男性 | 障がい児 (発達障がい) | 兄, I      |

表2. 定型発達児のきょうだい (IST) の語り

| 大分類            | 中分類                  | 小分類                        | 小分類ごとの個数 | 分類された語りの具体例                                                                              |
|----------------|----------------------|----------------------------|----------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| きょうだいから自分への影響  | きょうだいの存在の自分への影響      | ネガティブな影響                   | 1        | 「あの不登校の〇〇君の妹？」みたいに、(兄と) 同じ部活に入ったから言われるんじゃないかなと思っていた                                      |
|                | 自分の成長                | きょうだいをモデルとしての自分の成長         | 3        | ちょっと上で、ちょっと身近に悩んでいる人がいてくれるのはすごい自分にとっていい見本みたいな感じだった                                       |
|                |                      | 自身の力として考える自分の成長            | 5        | (弟が対象者と同じような考え方や行動様式を迫っていることについて) 自分が前にしていた考え方が行動とか、僕は僕の中でそれを乗り越えて、今は別の考え方をしていたりする       |
| きょうだいに対する態度    | きょうだいに対する基本的姿勢       | 自分ときょうだいの考えの違いを尊重する姿勢      | 3        | 話を聞いたりとか、相談もあればしたりもするけど、そんなにこう、お兄ちゃんがこうだから私がどうだとかはなかった                                   |
|                |                      | きょうだいに自己開示したり関わりを求めたりしない姿勢 | 3        | 弟にあんまりさらけ出せない                                                                            |
|                | きょうだいの行動に対する自分の態度    | 攻撃的態度<br>妥協的態度             | 3<br>2   | ストレスたまったときに、ちょっと強く当たったり<br>ほぼ僕が折れます                                                      |
| 自分に対するきょうだいの態度 | きょうだいから自分への基本的姿勢     | きょうだいから自分への不変的態度           | 1        | 兄はそんなに私に対しては、多少はあったかもしれないんですけど、大きく態度が変わることはなくて                                           |
|                |                      | 自分の主導に従う態度                 | 1        | 弟はそれ(私が絶対的に一番上って感じ)に疑問を感じずに、私が主導して二人で遊んでたって感じ                                            |
|                | きょうだいからの否定的評価        | 「面倒くさい」という評価               | 1        | めんどくさいって言われることはしょっちゅうです。上にも下にも、特に下からですね                                                  |
| きょうだいに対する印象    | きょうだいの性質への言及         | 肯定的言及                      | 11       | 感情豊かで、ものすごく優しく、感受性が豊か                                                                    |
|                |                      | きょうだいの印象の肯定的変化             | 3        | 自分の考えとかを持ち始めたから…高校生になって。そういうびっくりしたところもあった                                                |
|                |                      | 過去のきょうだいの様子への言及            | 2        | 向こうのほうが精神的にも大人だなーと小さいときはすごく思っていて                                                         |
|                | 否定的印象                | きょうだいを下に見る                 | 1        | それまでは、弟をそういう意味ではなめてたというか、見下してたのかなーみたいな                                                   |
|                |                      | きょうだいの悩む姿を見て実感             | 4        | それ(弟の悩み)を聞いてたら、「自分ですごくいろいろ考えて、自分ですごくいろいろ悩んでてもがいてるなー」みたいに思ってた。「こいつも成長してるなー」みたいな           |
|                |                      | きょうだいの成長を実感                | 3        | (兄が大人になったと感じたきっかけについて) 別に大きな出来事があったとかじゃないと思うんですけど、まあ、社会人になってって感じかな                       |
| きょうだいの自分に対する印象 | きょうだいとの上下関係          | 時を経て実感                     | 1        | それ(母等)に対する優しさが見えた                                                                        |
|                |                      | きょうだいの変化を見て実感              | 1        | それが絶対的に一番上って感じがすごい染みついてた                                                                 |
|                |                      | 自分がきょうだいにとって上の立場と考えられる     | 1        | 私が絶対的に一番上って感じがすごい染みついてた                                                                  |
| 自分ときょうだいの比較    | 自分ときょうだいを似ていると感じる    | 考え方類似                      | 5        | 根本が似てるみたいなのに結局なってくるんだろーな                                                                 |
|                |                      | 考え方相違                      | 4        | 根本的な性格・考え方も全然違う                                                                          |
|                | 自分ときょうだいの違いに対する感情    | 積極的感情                      | 3        | 活躍する分野が違ったんですね。だからお互いにコンプレックスを感じることもなく                                                   |
|                |                      | 消極的感情                      | 1        | 自分が努力してるところ、得意分野がちよっとずれてたりするのは、ちょっとコンプレックスに思っちゃったり…                                      |
|                |                      | 受容的態度                      | 1        | それ(兄に対するコンプレックス)がものすごく悩みになったことはない                                                        |
|                |                      | 安心感を得られる                   | 4        | 家に帰って2人がいると、ああ落ち着くって感じ                                                                   |
| 自分からきょうだいへの感情  | 自分からきょうだいへの肯定的感情     | 楽しさを感じられる                  | 2        | (一緒に) いて楽しい                                                                              |
|                |                      | 異性のきょうだいへの考え方の変化           | 1        | 異性のきょうだいだから恥ずかしいとかじゃないし                                                                  |
|                |                      | 「嫌だ」という否定的感情               | 4        | (弟の姿そのものか) 僕にとっては未熟な自分をもう一回見せられているみたいな感じがあって、そうやって同じ考え方が行動とかについているのを見ると、何とも言えない感情になったりとか |
|                | 自分からきょうだいへの否定的・消極的感情 | 羨望                         | 1        | 「いいな、こいつこんなに勉強できて」とか思った                                                                  |
|                |                      | きょうだいの不適応への戸惑い             | 1        | (兄の) 不登校のこととかがあって、家族の中でお兄ちゃんにすごく気を遣わなきゃいけない時期があったのを見ててその時期は本当に触れていいのかわからない存在だった          |
|                |                      | きょうだいを異性として捉える             | 1        | 同じ学校だから少し恥ずかしいっていうか、異性だし、なんかその時期、ちょうどお互いが女子っぽい男子っぽい時期だった                                 |
| きょうだいから自分への感情  | 肯定的感情                | きょうだいから自分への好意              | 1        | 私大好きだったなって感じ                                                                             |
|                |                      | 関係としての距離の近さ                | 7        | 結構仲良くしてたと思いますよ、学校とかも一緒に行ってた                                                              |
|                |                      | 第三者による評価からとらえた距離の近さ        | 1        | 私が高校生になるときに、兄が家を出て別々に住む形になったんですけど、それまでは男女のきょうだいにしては仲がいいねって言われてました                        |
|                | 過去の関係としての距離          | 関係の薄さ                      | 4        | 私自身も年齢が上がるにつれて外の世界も知るようになって、友達もできてそっちと遊ぶことも多くなったし                                        |
|                |                      | 過去の物理的な距離                  | 3        | その(生活時間の) ずれも大きくなった                                                                      |
|                |                      | 関係としての距離の近さ                | 7        | 会えば普通に仲がいい                                                                               |
|                | 現在の関係の関係としての距離       | 関係の変化                      | 4        | 私が上で…みたいなのはそんなになくなってきて、高校生の弟が人として話すかになって感じ。個人個人として                                       |
|                |                      | ポジティブなエピソード                | 1        | (家族全体の中で) いい緩衝材になる感じが…私があるときもあるし、お兄ちゃんがあるときもあるしで                                         |
|                |                      | きょうだいを家の中でしか会わない存在と捉える     | 4        | あんまり会うことがない                                                                              |
| きょうだいとの関係性     | 現在の物理的な距離            | 生活時間の差                     | 1        | 大学入ったのがとどめさしたような感じですね。完全に(生活時間が) ずれましたね                                                  |
|                |                      | 時間による解決                    | 1        | 普通に時間がたって落ち着いたり                                                                          |
| きょうだい関係での葛藤    | 葛藤のその後               | 時間による解決                    | 1        | 普通に時間がたって落ち着いたり                                                                          |

表3. 障がい児のきょうだい (ISD) の語り①

| 大分類                 | 中分類                    | 小分類                                 | 小分類ごとの個数                                                                                                            | 分類された語りの具体例                                                                                                                                                                                           |                                                                       |
|---------------------|------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|
| きょうだいから自分への影響       | きょうだいの存在の自分への影響        | ネガティブな影響                            | 4                                                                                                                   | 外との関係も彼女が入ることで難しかったり                                                                                                                                                                                  |                                                                       |
|                     |                        | ポジティブな影響                            | 6                                                                                                                   | (自分自身が) 面倒見もちょっとは良くなったかなーとか                                                                                                                                                                           |                                                                       |
|                     |                        | 特別な経験                               | 2                                                                                                                   | 私人に預けられることが多かったんですよ、妹が入院したりっていうのもあったから                                                                                                                                                                |                                                                       |
|                     | きょうだいの存在の自分への影響に対する感情  | 将来的に考えられる影響                         | 1                                                                                                                   | 差しあたって今それが大きな悩みの一つでもなく、まあ将来的にはそうなる(自分が妹の面倒をみることになる) こともあるだろうなという感じ                                                                                                                                    |                                                                       |
|                     |                        | 現在の状況へのポジティブな捉え<br>自分や自分の子どもの将来への不安 | 2<br>3                                                                                                              | 今はちょっと距離がとれている (入院で距離を取らざるを得ない) ので楽<br>それこそ私が (妹の面倒を) 見られないかと思うのは、(自分の) 子どもには (同じようにさせたくない) って思いますね                                                                                                   |                                                                       |
| きょうだいに対する態度         | きょうだいの行動に対する自分の態度      | 世話役を積極的に取る姿勢                        | 4                                                                                                                   | (弟の面倒を見ることにに対して) あんまり嫌な気分とかではなくて、どっちかっていうと本当に、大事にしなきゃなみたいな感じが強かった<br>(対象者自身にとって喜ばしい出来事があったとき) 私がよかった一つ、親もよかった一つって思っている瞬間に、ぎゃーって。みんなで喜んだのが悪かったのかな。その時その時、うれいし時にそんなことになるから、もうあんま見せない方がいいのかなって思うようになってきた |                                                                       |
|                     | きょうだいに対する基本的姿勢         | 消極的態度                               | 1                                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                       |                                                                       |
|                     |                        | 積極的態度                               | 1                                                                                                                   | 手紙とかもよくくれたから、最初の方は返事を書いたりとかしてましたね                                                                                                                                                                     |                                                                       |
|                     |                        | 対立態度                                | 2                                                                                                                   | 気に食わないことがあったらこっちはあまり引かなかった                                                                                                                                                                            |                                                                       |
| 自分に対するきょうだいの態度      | 自分に対するきょうだいの具体的な行動     | 特殊と捉えられかねない行動                       | 1                                                                                                                   | 家に突然来たり押しかけてたりとか、家の前に、時間感覚がないから、もう寒い中何時間でも外で待ってたりするんですよ。で、仕事帰ったらいまだとか                                                                                                                                 |                                                                       |
|                     |                        | 自分の行動に対するネガティブな反応                   | 1                                                                                                                   | 私が高校の時に、友達といっしょに帰ってたとき急に「きーっ」て叫んで、まあきーって叫ぶ子だったんですよ、昔から                                                                                                                                                |                                                                       |
| きょうだいに対する印象         | 過去のきょうだいの様子への言及        | 中立的言及                               | 1                                                                                                                   | 反抗期もなかったし、弟は                                                                                                                                                                                          |                                                                       |
|                     | きょうだいの成長を実感            | 否定的な変化への言及                          | 1                                                                                                                   | 向こうが喋ることを覚えてから (衝突が多くなった)                                                                                                                                                                             |                                                                       |
|                     |                        | 家庭の外でのきょうだいの様子を見て                   | 4                                                                                                                   | 外で友達と遊んでる様子とかをたまに見ると、家にいるときよりも全然大人な対応ができていて、ちゃんと成長してるんだなーっていうか                                                                                                                                        |                                                                       |
|                     |                        | きょうだいの性質への言及                        | 肯定的言及                                                                                                               | 4                                                                                                                                                                                                     | 基本的には優しいタイプの性格                                                        |
|                     | 否定的言及                  |                                     | 5                                                                                                                   | ときどき何か、感情が爆発するみたいな                                                                                                                                                                                    |                                                                       |
|                     | 中立的言及                  |                                     | 3                                                                                                                   | 人に躊躇なく頼れるタイプだから、いいこともあると思うし、悪いこともあると思う                                                                                                                                                                |                                                                       |
|                     | 第三者のきょうだいに対する評価から      |                                     | きょうだいと周囲との違いを感じる                                                                                                    | 1                                                                                                                                                                                                     | 変わってるのを感じてたのと、兄の同級生からいじられ気味というかそういうのを見てた                              |
| 否定的印象               | きょうだいを下に見る             | 2                                   | ちょっとなめてたかもしれない                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                       |                                                                       |
| きょうだいの自分に対する印象 (推測) | きょうだいの親役割としての自分        | 自分の親役割の自覚                           | 1                                                                                                                   | それからは本当にもう、弟からしたら (自分が) 半分親だったのかな                                                                                                                                                                     |                                                                       |
| 自分ときょうだいの比較         | 自分ときょうだいの違いを感じる        | きょうだいとの考え方の相違                       | 1                                                                                                                   | 考え方の違い、うーん…向こうが論理的じゃないって感じることはあります                                                                                                                                                                    |                                                                       |
|                     |                        | きょうだいの障がいの影響                        | 1                                                                                                                   | 向こうは障がいがあるって僕の方が口が立つ                                                                                                                                                                                  |                                                                       |
| 自分からきょうだいへの感情       | 自分からきょうだいへの肯定的感情       | 自分への好意を実感                           | 1                                                                                                                   | 大学を受けること自体は応援してくれていたんですよ。受験勉強の時期かな?そうそう、受験の日に絵を描いてくれて、がんばれって書いて持たせてくれたりとか。それはうれしかったから                                                                                                                 |                                                                       |
|                     |                        | 成長を実感                               | 1                                                                                                                   | (弟が会わない間に成長していることに関して) うれしい感じかな                                                                                                                                                                       |                                                                       |
|                     |                        | 「嫌だ」という否定的感情                        | 13                                                                                                                  | こっちは鬱陶しいと思うこともある                                                                                                                                                                                      |                                                                       |
|                     | 自分からきょうだいへの否定的・消極的感情   | 「きつい」という否定的感情                       | 3                                                                                                                   | きつい経験の方が多かった                                                                                                                                                                                          |                                                                       |
|                     |                        | がっかりする気持ち                           | 1                                                                                                                   | また同居に戻るってなった時はがっかりというか。もちろん自由が制限されるっていうのもあるし                                                                                                                                                          |                                                                       |
|                     |                        | きょうだいの将来の心配                         | 4                                                                                                                   | この先どうなるのかなーみたいな。弟の行く末、進路とかを心配してしまう                                                                                                                                                                    |                                                                       |
| きょうだいから自分への感情       | きょうだいへの心配・悩み           | きょうだいの性質についての悩み                     | 1                                                                                                                   | もうちょっと我慢強くなつてほしいかな                                                                                                                                                                                    |                                                                       |
|                     | 羨望                     | きょうだいへの自分の人間関係をうらやむ気持ち              | 3                                                                                                                   | 私に対してのうらやましい気持ちが強くて、友達がいることとか                                                                                                                                                                         |                                                                       |
|                     | 肯定的感情                  | 好意的感情                               | 1                                                                                                                   | 弟は弟で、私のこともお母さんのことも結構好き                                                                                                                                                                                |                                                                       |
|                     |                        | きょうだいへの自分の成功を気に食わなく思う気持ち            | 2                                                                                                                   | (自分が) 大学に受かったんですけど、そのときも (妹は) すっごい怒って                                                                                                                                                                 |                                                                       |
|                     |                        | 関係としての距離の近さ                         | 12                                                                                                                  | 仲は良かった                                                                                                                                                                                                |                                                                       |
|                     | きょうだいとの関係性             | 過去の関係としての距離                         | 関係の薄さ                                                                                                               | 2                                                                                                                                                                                                     | (対象者自身が) 自分のことしか考えてなかったんだと思う                                          |
| 関係の変化               |                        |                                     | 2                                                                                                                   | 高校生になると関わりも薄くなってきた                                                                                                                                                                                    |                                                                       |
| 対立的関係               |                        |                                     | 6                                                                                                                   | 喧嘩が多かった時期はあったので…それはまあ、大変でした                                                                                                                                                                           |                                                                       |
| 叱責する関係              |                        |                                     | 2                                                                                                                   | 一緒に住んでるときも特に喧嘩とかは全然なくて、どっちかっていうと、私がお母さんと一緒に怒っちゃう感じのときはあった                                                                                                                                             |                                                                       |
| 関係としての距離の遠さ         |                        |                                     | 2                                                                                                                   | ずーっとそんな感じで、なんか (痼癪を起こす妹に) びくびくしながら家の中でも                                                                                                                                                               |                                                                       |
| 同居                  |                        |                                     | 1                                                                                                                   | 高校の時は学校終わったら家にいないといけなかったから、(自分が) 勉強も家でするし、だと (妹のことか) やっぱ目につくから                                                                                                                                        |                                                                       |
| 過去の物理的な距離           |                        | 別居                                  | 2                                                                                                                   | 一緒に暮らせなくなったんですよ、きょうだいと離れた、一時的にですね。大学で4年間出て                                                                                                                                                            |                                                                       |
|                     |                        | 物理的な距離の遠さ                           | (私に対してハサミでなんかしたんじゃないかな。親もそれで、あんまり無理に近づけようとしなくなって。で、そういう経過があるから、うちの親も孫にそれが出ないか心配みたいで。) それで距離をとってますね。いいことなのかは (わからない) | 1                                                                                                                                                                                                     |                                                                       |
|                     |                        |                                     | 関係としての距離の近さ                                                                                                         | 3                                                                                                                                                                                                     | ぼちぼち (兄が自分に心を) 開いてるんじゃないですかね                                          |
|                     |                        |                                     | 関係としての距離の遠さ                                                                                                         | 2                                                                                                                                                                                                     | (なかなかその状況を俯瞰してみるようなことは) できないんでしょね、今でも一緒に暮らせて言われると、できないような気がしますもんね     |
|                     |                        | 現在の関係としての距離                         | 関係の薄さ                                                                                                               | 3                                                                                                                                                                                                     | 相談とか悩みが言えないとかはありますよね。きょうだいとはやっぱり近い関係だけ。そういう関係にはなれないっていうのは、もう絶対的にそうだから |
|                     |                        |                                     | 関係の変化                                                                                                               | 1                                                                                                                                                                                                     | 大学入ってから会う頻度というか、関わり合いの強さみたいなのも少なく、弱くなったので、単純にそれで衝突が減ったかな              |
| 中立的関係               | 4                      |                                     | 普通に会話して、普通に生活はできる                                                                                                   |                                                                                                                                                                                                       |                                                                       |
| 現在の物理的な距離           | きょうだいを家の中でしか会わない存在と捉える | 1                                   | 家にいるときの弟しか普段見ないじゃないですか、家族って                                                                                         |                                                                                                                                                                                                       |                                                                       |
|                     | 生活時間の差                 | 3                                   | あんまり会わないって言うのとあれだけど、時間帯も合わない                                                                                        |                                                                                                                                                                                                       |                                                                       |

表4. 障がい児のきょうだい (ISD) の語り②

| 大分類                           | 中分類                    | 小分類                      | 小分類ごとの回数 | 分類された語りの具体例                                                                                             |
|-------------------------------|------------------------|--------------------------|----------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 自分からきょうだいへの影響                 | きょうだいの特性への影響           | きょうだいの特性への自覚感            | 3        | 接し方が悪かったからこうなったのかなって、ずっと、親がそう考えていたからかもしれないけど、思っていた時期があって                                                |
| きょうだい関係認知・期待                  | 障がいへの認知                | 障がいに関する自分なりの考え           | 1        | 普通に、病気でついているのと障がいっていうのとは、なんか重みみたいなのが違うような気がして                                                           |
|                               |                        | 一般的なきょうだい関係への憧れ          | 1        | 普通のきょうだい関係が築けたらよかったなっていうのはずっとあったなとは思ったりしますけどね                                                           |
|                               | きょうだいの存在についての仮定        | きょうだいの存在によるポジティブな影響 (仮定) | 1        | いなかったらついているのは想像つかないから難しいけど、もっとわがままだったかなって思う、弟がいなかったら                                                    |
|                               |                        | 親に甘えられた体験                | 1        | (出産してから) その時初めて親にかまってもらったみたいなのがあったかなって。甘えられたなって親に対してですね                                                 |
| きょうだい関係認知・期待                  | きょうだいの存在についての仮定        | 親の行動への理解が難しい             | 1        | ちょっとおかしいやんって思うことがいっぱいあったんですよね、母の対応に對しても。言ってもなんか通じないし、今でもあんまり通じないんですけど。まあ親ならではのね、視点がなんかあるんだろうなとは思いますが    |
|                               |                        | きょうだいがいることで生じた親への葛藤      | 1        | (ご両親に話を伝えることはできていた?) 当たり障りのない話を選んでたんだと思いますね、子どもなりに。やっぱり刺激したくないし                                         |
|                               |                        | きょうだいが優先されていると感じる        | 6        | (親から放っておかれて嫌な気持ち)は ちゃんとあった                                                                              |
|                               |                        | きょうだいと平等に扱われていると感じる      | 1        | なんかちょっと平等にしてくれてる感じは最近はしますね                                                                              |
|                               | きょうだいの影響によるきょうだい外の対人葛藤 | きょうだいより優先されていると感じる       | 4        | 出産したときに何週間か来てくれて、子供の面倒とか、私の世話をしてくれますよね、その時初めて優先されたというか                                                  |
|                               |                        | きょうだいの話をしづらい             | 14       | わざわざ自分のきょうだいが障がいがあるかどうか言うかっていうのが、すごく葛藤がある時期があって、なんか、高校の時まではまあ別に言ってもいいかなって感じだったんですけど、大学に入って              |
|                               |                        | 周囲からの気遣い                 | 1        | 6年生の先生で、周りの子に先生はなんか話しかかったんでしょね、でも私がいると話しづらくって、だから職員室になんかあるから取って来いみたいなことを言われて私が取りに行ってるあいだに話してるんですよ、妹のことを |
|                               |                        | 葛藤の振り返り                  | 6        | 一回投げかけたことによって、これは、ああ、投げかけてもいいんだな、打ち明けていいんだなって思ったことが大きい                                                  |
|                               | 葛藤のその後                 | 現在の意識                    | 1        | そこまでそういうの (きょうだい間の葛藤) も意識はしてなかった                                                                        |
|                               |                        | その後の自分への影響               | 9        | 私にとっては、きょうだいのことで迷ったり悩んだりしたことが良い経験になった。そこをふまえたほうが楽になったし、プラスになった、そこを乗り越えたことが                              |
|                               |                        | 葛藤を無視する                  | 1        | 中学校とかで、ある意味なんか、なんて言うんですかね。そこを無視するじゃないけど、そうやってきた気がする、自分は。葛藤に触れずに来た気がする                                   |
|                               |                        | きょうだいのことを表に出す            | 6        | もう構えずにこの場では言うみたいな感じがあったんですよね。で、今は、なんかもう近い人には言おうみたいな感じ                                                   |
| きょうだい関係やきょうだい外対人関係における葛藤の対処方略 | コーピング                  | きょうだいのことを人に話す            | 10       | 親友にも話してました                                                                                              |
|                               |                        | きょうだいの世話が少ない生活           | 1        | 私一人で (妹の世話を) 何かするっていうのはすごく少ないような環境で来たような気はする                                                            |
|                               | サポート                   | 他者からのサポート・理解             | 8        | 周りの人がすごく良くなってきたから (良くてくれたから)、(葛藤を) 無視できたんだと思う                                                           |
|                               |                        | きょうだいの障がいに対する周囲の認知度      | 2        | 知ってる人は知ってるって感じだったんですけど。だからこう (小中学校の頃は) あんまり悩まなかったんですよね                                                  |
| 環境要因                          | 自分にとって良い環境             | きょうだいの世話への関与感のなさ         | 4        | 妹の世話をしろとかって言われることもなかった                                                                                  |
|                               |                        | 環境                       | 4        | (大学の頃は、意識して家にいたくないというよりは、年齢的に) 妹のことより、楽しいことがいっぱいあったというか。したいこととかが外にあったのかな                                |

通点と共に、語りの質の差異も複数見られた。以下、ISD特有の語りについて、ISDのみに見られた大分類から考察していく。その後、両者に共通する大分類の中身の違いから、両者の語りの共通点と共に、ISDの語りの特徴について考察していく。

### 1. ISDに特有の5つの大分類について

#### 1) 【自分からきょうだいへの影響】について

【きょうだいから自分への影響】に関しては、IST・ISD共に語りが得られたが、対象者自身のきょうだいに対する影響に関しては、ISDからのみ語りが得られた。具体的内容としては、自分の関わりがSDの障がいに影響していたのではないかと考えるものであった。柳澤 (2009) によると、「自閉症児のきょうだいに及ぼされるマイナスの影響の一つとして、障がいの原因を自分に起因させ、罪悪感を抱くこと」が挙げられている。本調査におけるSDの障がいは、発達障がい、または知的障がいであり、身体障がいなどの障がいと比べて原因やその特徴を理解しづらい上に、SDとのコミュニケーションの中で違和感を抱くことを経験しやすいと想像される。そのため、SDの障がいを対象者自身の関わりに帰属してしまうことが多かったのではないかと考えられる。したがって、このような語りは、発達障がいや知的

障がいなどを有するきょうだいをもち、日々きょうだいの障がいの特性に触れてきた人々ならではの語りだと考えられる。

#### 2) 【きょうだい関係認知・期待】について

この大分類には、[障がいへの認知] の、SDの障がいをきっかけとして、障がいそのものへの考えが深まったという語りが含まれている。他にも、[きょうだいの存在への仮定] の、定型発達児同士のきょうだい関係への憧れや、SDがいたからこそ自身へのポジティブな影響などについての語りが含まれる。このような語りも、SDが身近に存在し、「障がい」を意識する機会が多かったため得られたものであると考えられる。そして、定型発達児同士とは異なるきょうだい関係であることを認識し、葛藤を抱きながらも、その関係を徐々に受容できるようになっていったことが窺えた。葛藤を乗り越え受容する過程に関しては、次項以降で考察する。

#### 3) 【きょうだいの影響によるきょうだい外の対人葛藤】について

ここでは、[きょうだいがいることで生じた親への葛藤]、[きょうだいがいることで生じた対人関係における葛藤] に分類したような、SDがいることによって他者との間に生じた葛藤のエピソード

ソードや、[葛藤のその後]に分類したような葛藤を振り返る語りが得られた。対してISTからは、葛藤に関する語りは少なかった。柳澤(2009)は、自閉症児をきょうだいに有するISDについて、「障害のある子どもに対して親が注意を向けることが多くなることから、きょうだい(本論文でのISD)は、孤独感を抱き、障害のある子どもと親の愛情をめぐって、いわば「張り合う」ことに対する罪悪感を抱くことが多い」と述べている。また、遠矢(2009)は、「親から暗黙のうちに求められたキョウダイ(本論文でのSD)の世話と、自分自身の友達関係のはざまに立ってきょうだい(本論文でのISD)が葛藤状態におかれてしまうことがある」と述べている。よってこの調査では、ISDがISTよりも、きょうだい関係そのものや、きょうだい関係を媒介とした家族や他者との間での葛藤を多く経験する傾向にあるということをサポートする結果となった。

#### 4)【きょうだい関係やきょうだい対人関係における葛藤の対処方略】について

ISDからは、葛藤に対するコーピングやサポートに関する語りが多く得られた。コーピングについてはSDのことを友人や学校の先生に話していた、サポートについてはSDのことを周囲の他者が理解してくれたといったエピソードがそれぞれ語られた。阿部・神名(2016)の研究では、両親とISDの受容的・支持的関係を促進することが、ISD特有の否定的感情の低減につながると示唆されている。阿部・神名(2016)の研究では親からのサポートについて主に言及しているが、本研究の結果からは、親以外の周囲のサポートも葛藤の対処に寄与していることが示唆される。したがって、定型発達児同士のきょうだい関係では経験しないような葛藤を経験する機会が多い反面、それを乗り越えることにつながる親子関係やその他の人間関係の広がり・深まりや自身の成長など、ISDにとってポジティブな影響もあると示唆された。

#### 5)自分ときょうだいを取り巻く環境について

きょうだい関係について語ってもらった際に、ISDからは、家族や周囲の他者が自分やSDにどのように関わってきたか、SDへの他者からの認識があったか等、家族や他者が登場するエピソードが語られた。ここでは、実際の両親や周囲の人々のサポートが、対象者がきょうだいの存在を気にすることなく自分自身の生活を送ることに繋がっていたという語りが複数見られていた。したがって、親や周囲が、ISDが「親役割を取る子ども」(Siegel & Silverstein, 1994)などのISDとしての役割を担わずに済む環境を調整することで、ISDがのびのびと育つことにつながると考えられた。

### 2. IST・ISDに共通の大分類から見る両者の共通点・差異点について

#### 1)自分ときょうだいの将来について

【自分からきょうだいへの感情】についてはIST、ISD双方から語りが得られた。具体的内容について見ると、ISTからは「自分からきょうだいへの肯定的感情」「自分からきょうだいへの否定的・消極的感情」に分類されたような感情の語りがみられた。これらの中では、その時その時の対象者自身の考え方を反映した形で、きょうだいへのポジティブまたはネガティブな感情といった、正反対のベクトルをもった感情が表されていた。ISDからもそのような感情が語られたことから、きょうだいに対してポジティブ・ネガティブ双方の感情を抱きながら成長して

いく点は両者に共通していると考えられる。しかし、ISDでは、それに加えて「きょうだいへの心配・悩み」として語られた、SDの特性を踏まえた心配ごとなどが語られていた。さらに、ISDからは、【きょうだいから自分への影響】のうちの「きょうだいの存在の自分への影響に対する感情」に分類したような、SDの将来や、自分とSDの将来の関係性についての不安が語られたが、ISTからはそのような語りはみられなかった。三原ら(2005)は、ISDについて、「障害者や両親の存在を考慮しながら、将来の自分たちの職業の選択や結婚の決定を行っていた」と述べている。したがって、ISDは、自分とSTの将来をあまり結び付けて考えないISTに比べ、将来自分と同居する可能性はあるのか、自身の子どもにもきょうだいのことを任せることになるのか等、自分とSDの将来について結び付けて考える機会が多いことが示された。また、Sigel & Silverstein (1994)の研究の中でも、ISDのタイプの一つとして、「親役割を取る子ども」が挙げられており、このことから、親のような立場からきょうだいの将来の生き方について心配する傾向があることも同時に示唆された。

#### 2)自分からきょうだいへの感情について

まず、【自分からきょうだいへの感情】のうちの「自分からきょうだいへの肯定的感情」の中に位置する『安心感を得られる』『楽しさを感じられる』について、ISTからは複数の語りが得られた。しかしながら、ISDはISTと比べると肯定的感情の語り自体が少なかった上、『自分への好意を実感』『成長を実感』など、どちらかというときょうだいと対等な立場というよりは、親のような視点で感じられる感情についての語りが得られた。このことから、きょうだいを自身にとっての重要他者として認識している点は両者に共通すると考えられた。その一方で、発達・知的障がい児をきょうだいにもつ場合、どうしても様々な事物や状況に対して理解しやすいISD自身の方が、自然と保護者のような立場にたちやすく、楽しさや安心感を対等な立場で共有する相手にはなりにくいと考えられた。また、【自分からきょうだいへの否定的・消極的感情】の中の『「きつい」という否定的感情』はISDの語りからしか見られなかった。このことから、親や周囲の大人はどうしても目立ちやすい「障がい」という特性をもつ子どもに目が向きやすいが、そのすぐ傍で、SDとの関係の中で悩んだり、しんどさを感じているISDにはなかなか焦点化されず、ISDが「きつい」という感情を抱き続けやすいのではないかと示唆された。

#### 3)きょうだいへの基本的態度について

【きょうだいに対する自分の態度】のうちの「きょうだいに対する基本的姿勢」に分類された語りを比較した。すると、ISTの語りは『自分ときょうだいの考えの違いを尊重する姿勢』に分類されたような、互いの考え方を尊重しつつ、相談し合う姿勢が語られていた。反対に、『きょうだいに自己開示したり関わりを求めたりしない姿勢』に分類されたような、あえてSTに対して自身の本音を語らない姿勢についても語られていた。これらは、どちらもある意味でSTを1人の大人として意識し尊重するような姿勢であると考えられる。一方、ISDの語りは、『世話役割を積極的に取る姿勢』に分類されたような、対象者が自らSDの面倒を見なければといった役割意識をもった姿勢についてであった。以上より、両者共にきょうだいを尊重し大切にするという意味では共通しているが、その大切にす姿勢に違

いがあると考えられる。ISTは、きょうだいが自身より年長・年少にかかわらず、成長に伴って相手を対等な立場として認識しやすい一方で、ISDは、対等な立場として相手を認識するよりも、世話役割等の役割意識を強く意識すると示唆された。また、今回の調査におけるSDの障がい知覚が知的障がいや発達障がいであったことも、対象者がよりきょうだいの保護的役割を取らねばと感じさせる要因だったと考えられる。

#### 4) きょうだいから自分への影響について

【きょうだいから自分への影響】に分類された語りを比較すると、ISTからは、[自分の成長]の中の『きょうだいをモデルとしての自分の成長』に見られる、きょうだいの行動や姿が自分に影響を及ぼしたというようなISTとPTDの二者間で完結するエピソードが多く語られた。それに対しISDからは、[きょうだいの存在の自分への影響]のうちの『ネガティブな影響』に見られる、SDの存在によって対人関係が難しくなった、家族での活動が制限された等、自分ときょうだいに加え家族や友人といった他者も登場するようなエピソードが多く語られた。【きょうだいから自分への影響】という同じ大分類の中でも、小分類単位で見ると、きょうだいとの二者間での自分への影響であるのか、きょうだい以外の第三者との間での自分への影響であるのかという、語りの質の違いがあることが示唆された。また、ISDからは、[きょうだいの存在の自分への影響]のうちの『ポジティブな影響』において、きょうだいが障がい児であるからこそ自分に身についた面について語られた。柳澤(2009)も、ISDに適切な心理的支援がある中では、SDの存在は、ISDの人格発達に良い影響を及ぼすと述べている。これらのことから、ISDならではの特別な経験が、「周りをよく見るようになる」、「面倒見がよくなる」といったISDへのプラスの影響を及ぼすことが示唆された。

### V. 総合考察

本研究では、ISTとISDが、きょうだいに対してどのような思いを経て、きょうだい関係そのものをどのような形で認識してきたのか、きょうだい関係が自身の生活や考えにどのような影響をもたらしたのかについて、主に以下の3点が示唆された。

1 点目は、ISTはきょうだい関係について考える際、自分とPTDの二者間で完結しやすいのに対し、ISDは、他者を含めた環境の中できょうだい関係を認知していることである。

2 点目は、ISDは、SDとの関係から、自身の生活や考え方に対するポジティブ・ネガティブ両側面の影響を受け得るということである。上述したように、周囲との関係を意識することで、SDの存在を媒介した対人関係・親子関係における葛藤や、自身の将来に関する悩みなどを抱きやすと考えられた。その一方で、客観的に周囲を見渡すことができるようになる、面倒見がよくなるなど、SDとのきょうだい関係がISDの心理的成長を促すといったポジティブな影響もあると示唆された。

そして3 点目は、親や周囲がISDの様子を気にかけ、ISDのきょうだいとしての役割意識に理解を示し、役割を請け負いすぎずに生活できるようサポートすることが重要であるということである。そうすることで、ISDがきょうだい関係から自然と担ってしまいがちな取得役割の負担を軽減したり、自分自身の生活や人生を楽しもうとする姿勢が生まれやすくなったりすると本研究で示唆された。

ISTとISDの両者共に、きょうだいを自身にとっての重要他者として認識し、共に成長していく過程の中で、きょうだいに対して抱く感情は、肯定的側面と否定的側面の両側面があることが示唆された。しかしながら、ISDは、定型発達児同士のきょうだい関係では経験し得ないような、きょうだい関係そのもの、またはきょうだい関係を媒介とした他者との人間関係での不安や悩みも抱えやすいと考えられる。その一方で、周囲の大人がISDとしての役割意識や、役割意識から生じる思いを理解し、SDだけでなく、ISDとも密接にかかわることで、負担や不安が軽減され、自分らしい生き方をISDが選択しやすくなると考えられる。まずはISDに目を向け、その気持ちに寄り添うことが大切であると本研究では示唆された。

### VI. 今後の課題

本研究の対象者は、大学生と社会人で構成されていたため、結婚、出産等の経験の有無にも違いがあった。また、きょうだい構成に関してもばらつきがあり、きょうだいの育つ環境に差があったと考えられる。これらの要因が、語りに大きな差をもたらした可能性がある。したがって、今後の研究では、各条件を可能な限り統一したうえでを行い、きょうだい研究の新たな知見を発見することが必要であると考えられる。

また、今回の対象者のSDの障がいは知的障がい、発達障がいであったが、知的障がいと発達障がいでも障がい特性には違いがあり、さらに、身体障がいなどのコミュニケーションの難しさを伴わない障がいであれば、全く異なる語りが得られる可能性もありうる。したがって、今後はSDの障がいを一つの種類の障がいに限定した形でのインタビュー調査や、今回は対象としなかった種類の障がいを有するSDをもつ対象者への調査などによって、より深みのある知見が得られると考えられる。具体的には、SDの障がい特性からISDが受ける影響や、抱く役割意識の違いが明確化され、より個別性を考慮したISD支援に役立つと考えられる。

### VII. 謝辞

本研究の実施にあたり、快くご協力頂きました調査対象者の方々に心より感謝申し上げます。

### VIII. 引用文献

- 阿部美穂子・神名昌子(2016). きょうだいの障害のある同胞に関する否定的感情と親からのサポート期待感との関係に関する調査研究. 特殊教育学研究, 54(3), 157-167.
- 藤井和枝(2006). 障害児者のきょうだいに対する支援(1). 関東学院大学人間環境学会紀要, 6, 17-32.
- 早川孝子・依田明(1983). ふたりきょうだいにおけるきょうだい関係. 横浜国立大学教育紀要, 23, 81-91.
- 三原博光・松本耕二・豊山大和(2005). 障害児の両親の育児意識に関する研究: 障害児ときょうだいに対する比較調査を通して. 山口県立大学大学院論集, 6号, 81-87.
- 大瀧玲子(2011). 発達障害児・者のきょうだいに関する研究の概観—きょうだいが担う役割の取得に注目して—. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 51, 235-243.
- 白佐俊憲(2004). きょうだい関係とその関連領域の文献集成〔Ⅱ. 論述紹介編〕. 川島書店.
- Siegel, B. & Silverstein, S. (1994). *What about me? : Growing up with a developmental disabled sibling*. Perseus Publishing.
- 遠矢浩一(2009). 障がいをもつ子どもの「きょうだい」を支える お母

さん・お父さんのために。ナカニシヤ出版。

柳澤亜希子 (2009). きょうだいの自閉症児・者に対する理解をめざした  
教育的支援。風間書房。

吉田俊和 (1991). きょうだい関係。松田惺 (編). 新・児童心理学講座  
12巻 家族関係と子ども。金子書房, pp. 108-136.

## **The influence of a sibling's disability on the recognition of sibling and personal relationships**

Yuki FUJITA, Natsumi OKITA

Graduate School of Human-Environment Studies, Kyushu University

Yuki HIWATASHI

Nagasaki Junior College

Saori IDE

Osaka Ohtani University

Satoko OGATA

Kumamoto Yushin Hospital, Meiwakai Medical Corp

Koichi TOYA

Kyushu University

This study aimed to analyze the differences between the influence of a relationship with a sibling with a disability (hereafter referred to as “SD”) and that of a relationship with a sibling with typical development (hereafter referred to as “ST”). Accordingly, the author interviewed individuals having a sibling with a disability (hereafter referred to as “ISD”) and those having a sibling with typical development (hereafter referred to as “IST”). The results suggested the following three points. First, when IST think about their relationship, they often imagine only themselves and ST, whereas ISD often imagine not only themselves and SD but also others who are related to them. Second, ISD often experience positive and negative effects of having an SD on their lives, ways of thinking, and personal relationships. Third, if the parents or adults in the surrounding support ISD to not play the role of a “sibling of a person who has a disability” too much and try to understand them, it can reduce psychological conflicts of ISD and allow them to try to enjoy their life without being influenced by the sibling relationship.

**Keywords:** children with a disability, sibling, psychological conflicts, influence on personal relationship